

# 政策転換した理由は

## 単独に不安がる町民が多くなりだした



上原 正一議員

2年前の住民投票条例制定の時は、「東串良町との合併協議を含む」と提案されたが、その後、合併推進と言いながら東串良町が大崎町との合併を問う住民投票をしようとしたら否定的な発言があった。その真意は、

### より大きな枠組みで

町長

住民投票後、いろいろ町民の方々と話をしていく中で、予想以上に県内での市町村の合併が進んできていて単独では不安がる町民が多くなりだした。東串良町との合併は郡境もあり、なかなか難しい。

### 三文字地区の洪水を防ぐ対策はどうなる

上原議員

東串良町の土地が自分たちの土地として考えることができたなら異常気象が通常化した現在、大雨の時、持留川の水を汐入川へ分散して特に三文字地区の洪水を防ぎ、人命や財産を守る政策を考えるのが今の我々の務めではないのか。

### 緊急対策は取っている

町長

汐入川拡張工事は何よりも先決であるという意見が多いが、同意を得られないまま断念した経緯がある。しかし両町より650万円ずつ出して川間放水路や井堰の自動化等緊急対策は取っている。

### 下永吉の基盤整備も遅れるのでは

上原議員

5千ヘクタールの畑の内、東串良町から1千ヘクタールの入作がある。東串良町との合併がむずかしいのであれば下永吉地区の基盤整備が遅れて、「農業の町大崎」にとって、これからの農業がやりにくくなるのではない

### 地権者の同意が得られなかった

町長

区画整備の必要性は十分認識しており、過去に説明会を行ったが、同意を得られないまま計画を断念した。今後も農道、水路などの整備を推進していく。

### 住民投票時との違いは

上原議員

住民投票前に行われた説明会で示した財政シミュレーションでは10年先、20年先もやっていけると説明したのに、なぜ政策転換したのか。

### 財政運営はやっていける

町長

財政試算表は、その時点で知りうる情報をもとに作成した。交付税は毎年1億数千円ずつ減ってきているが、財政運営はやっていける。しかし、県内の市町村の状況が変わってきた。単独でいった場合、将来の責任の方が大きいと思っただけで方向転換した。



大崎町と東串良町とで整備を行った川間放水路